

各学科・専攻学修状況の報告（5）文化創造学専攻の学修状況

○久世 文化創造学専攻の久世と申します。

よろしくお願いたします。

文化創造学専攻は、お手元の黄色の評価資料でございますが、この資料のなかの「書道・国語」「観光」「アーカイブ」という三つの専修で構成されております。詳しい内容をご説明させていただきたいと思っております。



まず文化創造学専攻がどのような教育をしていくかということを考えるときに、文部科学省で、「予測困難な時代において、生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」という答申が出ております。

予測困難な時代における大学教育



予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）
平成24年3月26日中央教育審議会大学分科会大学教育部会

<文創スライド1 予測困難な時代における大学教育>

内容を見てみますと、大きく分けて六つぐらいに分けることができるわけです。特に一番下側の「学修支援環境を整備する」が一つ。それから、二つ目の「学生の

主体的な学びを確立する」、この二つが重要なポイントになってくるのではないかと。これをもって、「学士課程教育の質的な転換」を図っていこうというのが、この答申の一つの考え方であると捉えております。

そこで、文化創造学専攻としても三つの方針を立てております。一つは、専門的かつ実践的な力を持たせる。二つ目は、文化の伝承と創造に取り組む人材を養成する。三つ目は、主たる学びの領域に、新しい学びを加える。この三つが専攻としての教育の方向にしております。

文化創造学専攻の教育方針

1. 多様な文化創造活動に関し**専門的かつ実践的な力**を持つ人材を育成する。
2. 日本文化の基礎を踏まえた教育活動ができ、地域社会の一員として**文化の伝承と創造**に取り組む人材を育成する。
3. **主たる学びの領域に、新しい学びを加える**ことで、付加価値の高い専門性を持ち、継続して学ぶことのできる学習意欲の高い人材を育成する。

<文創スライド2 教育方針>

これを図（スライド3）に表しますと、まず一つめ、左側のところですが、主専門を出て、多分野を学べるようなカリキュラムを作っています。



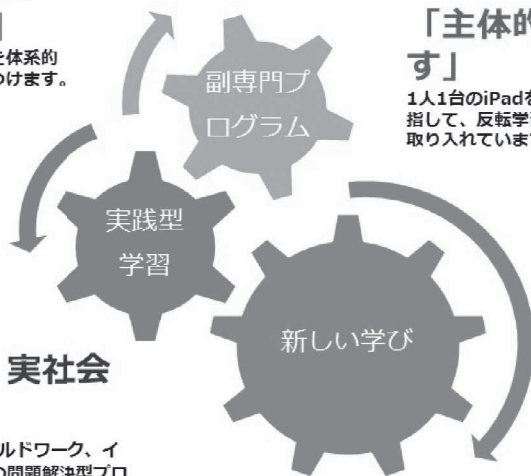
文化創造学専攻の特色

「主専門を出て、多分野を学ぶ」

主専攻とは異なる学問分野を体系的に学び複眼的な視野を身につけます。

「主体的な学修をめざす」

1人1台のiPadを活用し、主体的な学修を目指して、反転学習等アクティブラーニングを取り入れています。



「学校を出て、実社会を経験する」

ボランティア活動、フィールドワーク、インターンシップ、企業と協同の問題解決型プログラム等を展開しています。

<文創スライド3 特色>

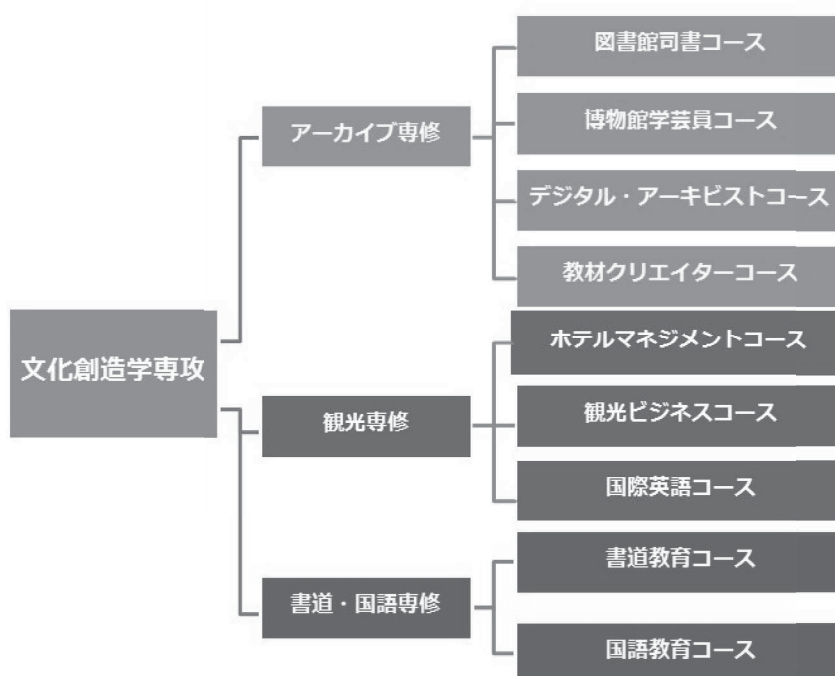
例えば、観光専修の学生であってもアーカイブ専修の授業を受け、情報の専門的なものを学ぶということができるようしていきたい。

それから、二つめには、「主体的な学修をめざす」です。これはアクティブラーニ

ングであったり、反転学習というかたちになるわけです。三つめには、できるだけ学校を出て、実社会を経験する。これらを一つの特色として持っていきたいと考えております。

構成につきましては、三つの専修で本年度新たに設けましたのは、アーカイブ専修の「教材クリエイターコース」、それから、観光専修の「ホテルマネジメントコース」です。

文化創造学専攻の構成



＜文創スライド4 専攻の構成＞

この教材クリエイターコースとは、特にデジタル・アーキビストでも教材開発というものを中心とした能力の育成をし、できれば小学校教諭1種免許状を取らせる。教員に、いわゆる教材開発の力を付けようというのが一つの目標になっております。

2020年には、一人1台のタブレットPCが学校に入ってくるという時代になります。その意味で、小学校の教員でも教材開発をすることができる人材は、これから必要になってくるだろうと考えております。今年度、幸いにもデジタル・アーキビスト資格を持つ、アーカイブ専修の学生が、小学校の教員採用試験に合格しました。その意味では、このような教材クリエイターをもっと養成していくことが必要だろ

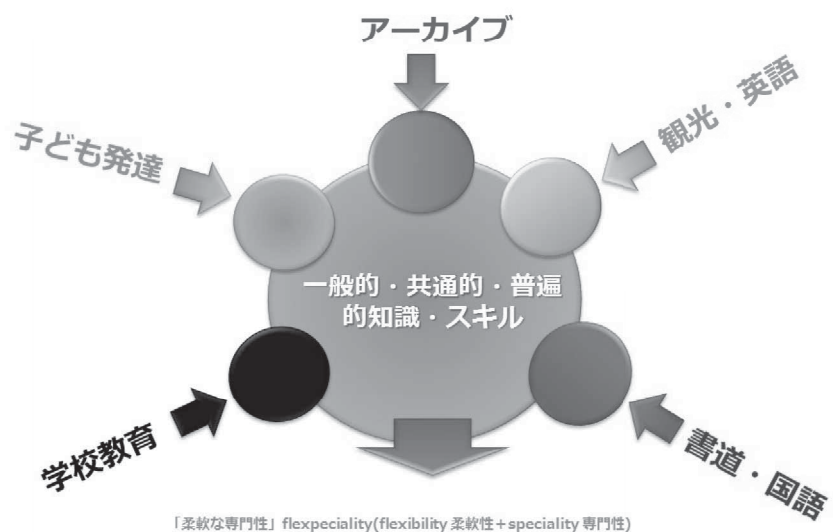
うと考えております。

ホテルマネジメントコースも、日本が観光立国を目指したなかで、岐阜県でも観光に力を入れておりますので、そういうマインドを身につけた人材を、これも要望としてはあるのではないかと考えております。

もう一つ、本学の特色でもありますが、デジタル・アーキビストについては、前回もお話をさせていただきました。さらに、これを進化できるようなかたちで、今年度2月11日にはデジタルアーカイブ研究所を設置しまして、専門的でより深い内容のものを開発していきたいと考えております。この文化創造学専攻のなかにも、それぞれの主専門に付け加えてアーキビストという専門をプラスして、イノベーション人材を養成していくことが必要であろうと思います。

文部科学省の
答申にもござい
ましたように、
予測困難な時代
になったときには、一つの専門
だけではなくて
複数の専門、い
わゆる柔軟な専
門性を持つよう
な学生が必要に
なってくるだろ
うと。

「柔軟な専門性」



<文創スライド5 柔軟な専門性>

そのようなところで今、主専門・副専門というようなかたちのことを考えているということです。

大学院早期履修制度により学びを深める



<文創スライド6 大学院早期履修制度>

他に、大学院の早期履修で、4年生のときに大学院の単位を取らせるということで学びを深める。さらに、文化創造学部の学生全員に一人1台のiPadを持たせておりますので、それを使った教育の推進をしております。

これも学修環境の一つとして、非常に重要なことではないかと考えております。それと同時に、iPadを使った授業改善を、本学の先生方にしていただかなければいけないということで、それぞれの授業のなかで、どのようにコンピューターを使った

授業を展開していくかということ、PDCAのなかで毎年改善をしています。

■ iPadの導入による授業改善

入学生全員が1人1台のタブレット端末 (iPad) の導入により、授業の改善も推進しています。



<文創スライド7 iPadの導入>



授業改善に関する評価・改善



活用する科目	iPad活用計画 (P)	iPad活用状況 (D)	iPad活用の評価 (C)	改善策 (A)
情報処理Ⅱ ～情報と人権～ (例)	<ol style="list-style-type: none"> iPadによるテキスト配布により、ビジュアルな新しいテキストを無料で提供できる。 授業アーカイブで撮影した授業をiPadで各自授業前に見て、授業では討論させることによりコミュニケーション・スキルを養成する。 プライバシーや個人情報に関するサイトをiPadで調査し、課題を行うことにより問題解決力を養成する。 iPadを授業で利用することにより、情報リテラシーを養成することができる。 iPadでプレゼンをさせることにより、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を養成する。 	<ol style="list-style-type: none"> テキストをサイボウズで配信し、各自テキストをiBooksに保存させた。 説明型の講義をオンライン教材化して空き時間に視聴し、従来宿題であった応用課題を教室で対話的に学ぶ教育方法を実践することにより、ディスカッションの内容が深まり、また十分な意見交換の時間確保が可能となった。 プライバシーや個人情報に関するサイトをiPadで調査し、課題を行わせることにより問題解決力を養成できた。 iPadを授業で利用することにより、情報リテラシーを養成することができた。 各自iPadでプレゼンをさせることにより、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を養成できた。 	<ol style="list-style-type: none"> テキストの配布をPDFで行うことにより、いつでもどこでもテキストを参照することが可能となる。 説明型の講義をオンライン教材化して空き時間に視聴し、従来宿題であった応用課題を教室で対話的に学ぶ教育方法を実践することにより、ディスカッションの内容が深まり、また十分な意見交換の時間確保が可能となった。また、他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる力を養成できた。 インターネットによる調べ学習を課題と出すことが可能になり、学習の内容が広がると共に、学生の主体的な学びを確立し、十分な質を伴った学修時間が実質的に増加・確保することができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 能動的学修授業への授業改善 能動的学修授業支援環境は、ICTを活用しながら、学生自身が主体となって学ぶ教育環境をさす。 授業アーカイブを通じた自主的な学修環境 学生が、十分な質を伴った学修時間を実質的に増加・確保するためにICTを利用した学修の方法として、講義の内容を授業アーカイブし、講義の空き時間にデジタル教材管理システムで自主的に視聴できるようにする。そのことにより、授業では事例や知識の応用を中心とした対話型の活動をする事が可能となる。

<文創スライド8 授業改善・評価>

二つ目の主体的な学修態度を養成するということにつきましては、昨年度、本学にも新しいe-Learning システムを整備いたしました。それにおける反転授業も展開していきたいと考えております。

e-Learningを活用した反転授業



e-Learning のなかにいろいろなコンテンツを入れさせていただいて、

<文創スライド9 反転授業>

それを使った授業をつくり込むことによって、学生の学修時間を確保するということも考えております。これをするためには、どうしても学修環境も整備をしなければいけませんので、ラーニングコモンズや電子黒板というようなものを、同時に整備させていただいているというようなことです。文化創造学専攻につきましては、以上の通り、報告させていただきます。